

特定非営利活動法人アサザ基金 第23期 活動報告

2021年4月1日～2022年3月31日

2021年度も世界中がコロナの感染対策に明け暮れました。アサザプロジェクトでは牛久市農村部の古民家に家畜を導入（3月にヤギを2頭、8月に烏骨鶏20羽、10月に馬2頭）し、これまでの谷津田再生事業に循環型農業を連携させて霞ヶ浦再生事業に臨む新たな一歩を踏み出しました。

牛久市内2件の古民家には各戸に日本財団からの助成で浄化槽を設置、シェアハウスも完成しました。農業に挑戦したい高齢者や都会からの若者に居住スペースを提供し、過疎化対策にも取り組みました。ウッドボイラーを導入して放置竹林を活用できるよう整備を進めました。

世界を見渡せば、大規模な自然災害の発生、暴力的な政治権力の横行とともに戦争が勃発、民主政治の後退、コロナ禍による生活のひっ迫など大変憂慮すべき時代を迎えています。

アサザプロジェクトは、これらの動きや変化と真摯に向き合い、次の時代の幕開けに向けて新たな発想を求め、実験的な取り組みを進めました。

○ 環境教育事業

牛久市における総合学習はコロナ非常事態宣言により県内小中学校の授業日程は大幅に変更となり、訪問授業も制限されました。流域外のすべての環境学習出前授業をオンラインで行いました。

●牛久市内におけるESD環境学習授業は、6校で出前授業を実施しました。

(38回1362名)

●秋田県では潟上市立大豊小5、6年生を対象に八郎湖の環境をめぐる授業をオンラインで進めました。(3回115名)

●岡山県では、岡山エコサポーターズ小桐さんのコーディネートいただき、真庭市立中和小、岡山市立小串小の子ども達にオンライン授業を行いました。(5回31名)

●東京都の世田谷小6年生に昨年度の授業を踏まえ、学校にやってくる生物（特にトンボ）と川との関りなどをテーマにオンラインで行いました(1回56名)

●イタリアのミラノ近郊にある公立キュリー高校の生徒たちと、犬丸和雄氏の協力によりオンラインで、地域や社会の課題について考える学習を行いました。

また、キュリー高校と牛久市立下根中学校との交流学习も実施しました。(3回30名)

●NECキャピタルソリューション

8/20 古民家から大田区立中萩中小夏休みわくわくスクールオンライン(20名)

○ 霞ヶ浦の水辺の保全と再生事業

湖の生態系を脅かす水位管理の問題、逆水門の閉鎖状況、2011年原発事故による放射能汚染問題など霞ヶ浦を取り巻く状況に大きな変化はありませんでした。地球規模の環境破壊に歯止めをかけようと、次世代を担う世界の若者たちが声を上げ始めました。アサザPJでも次のステップに向けて準備を進めました。

●6/26 小美玉市内のサッカークラブの子ども達が霞ヶ浦湖岸でアサザの植付を行いました。毎年学校行事としてアサザの植付活動を行っていた玉里東小が廃校となり、その活動を継続した形です。毎年アサザを育てて下さっている地元の方々のご支援に感謝します。

●水郷トンボ公園は1998年の開園から24年を経過。絶滅危惧種のオニバスやミズアオイに加えて秋には彼岸花の咲き乱れる市民の憩いの場所となりました。昔ながらの水郷潮来の風土を再

現する水辺の公園としてジャランボのメンバーが管理作業を引き受け、一年中きれいに整備しています。開園作業と閉園作業には当基金とジャランボPJメンバーで楽しく行いました。

○ 水源地保全事業

牛久市、鹿嶋市、桜川市などにおける水源地保全活動では、昨年同様コロナの影響で、協働で組んでいるほとんどの企業が現場を訪問出来ず、私共がオンラインで現場の様子をお伝えするなどの対策を取りました。夏休み等にはオンライン自然観察会も開催しました。米作りから酒造りまでの通年作業は当基金職員が担って例年通り無事に務めました。鹿嶋市や牛久市内の現場では、地元の方々の協力もいただきました。

- NEC 田んぼづくりプロジェクト with アサザ基金（2010年～牛久市上太田）
9/16 現場からビデオ撮影して田んぼの様子を紹介しました。一般ボランティアの協力で作業を進めました。（5/29 30 田植え 10/3 稲刈り）
- 三井物産谷津田再生プロジェクト（2007～牛久市遠山）
5/8 田植えオンラインと自然観察会 10/23 脱穀オンライン
12/11 谷津田イベント 2/5 酒仕込みオンライン 3/26 古民家イベント
- 一橋大学大学院 海外留学生との谷津田再生プロジェクト（2014年～牛久市遠山牛久市島田町は2年目となりました。6/13 有志で田植え 6/15 オンラインで講義
- SUZUYO いいね！プロジェクト（2018年～牛久市遠山）
5/13 田植えオンライン 7/21 田んぼ現場からオンライン近況報告
10/6 稲刈りオンライン
- かっぱん田プロジェクト（2010年～牛久市遠山）
5/8 田植えオンラインで中継 ラーニング生の受入はありませんでした。
- ホギメディカル谷津田再生プロジェクト（2009年～牛久市奥原）
4/9 仕込みオンライン中継 6/5 田植え 7/17 ホタル観察会 10/9 稲刈り 一般ボランティアの協力で作業を進めました。
- UBS RICE Project（2008年～鹿嶋市山之上）
5/9 オンラインで田んぼ自然観察会 6/6 田植え 10/10 稲刈り 地元の方や有志の方々に協力いただきました。
- 昭和電工マテリアルズお米で自然とつながろうプロジェクト（2017年～桜川市）
4/24 オンライン環境教室20名 8/22 夏休みオンライン環境教室47名

○ 耕作放棄地の活用

牛久市島田町古民家周辺の農村地域には、耕作放棄された畑や牧草地、手入れされていない山林が点在しています。畑はアサザ農園として、牧草地や山林は馬やヤギの餌場や放牧地としての活用に努めました。野山を手入れすることが命を養う循環となること。改めて里の暮らしの豊さを実感しました。

○ 古民家を活用した環境保全と地域活性化

牛久市久野町の第2古民家を日本財団の助成金を活用してシェアハウスへ改修、3月には都会からの若者を含む5人が入居。今後は、過疎化の進む農村地域での新しいコミュニティの基盤となることが期待されます。島田町の第1古民家には、日本財団、地球環境基金からの助成金で台所、浴室、洗面所を改修、カフェとギャラリーコーナーも出来上がり、念願のウッドボイラー導入により居住環境が充実しました。家畜と共存する新しいビジネスモデルづくりへの一歩を進めました。馬の飼育を通して、水源地谷津田で取れた稲藁の寝藁としての有効活用や馬糞堆肥の稲作への導入など、新たな循環も生まれました。

○ 自然観察会などの自主イベント

コロナ禍だからこそ、少人数でも野外で自然を体験出来る企画や提案を心掛けました。

里山子ども探検隊（4回） 4/18 30名 5/3 35名 6/20 15名 1/8 14名
 筑波愛児園生き物観察会オンライン 7/11 20名
 アサザカフェ 8/4 17名
 オーガニックハロウィン 落ち葉かき 10/30 80名
 沓掛学荘自然観察会オンライン 11/3 34名
 第1回アサザ幼知縁 12/23 18名 第2回アサザ幼知縁 1/22 11名
 竹細工講座プレイベント 3/28 12名

○ ボランティアの受け入れ

4/9 NOK ユニオンの有志の方々30名が古民家裏の竹林整備をボランティア活動として行いました。また、コロナ禍で田植えや稲刈り等のイベントを中止せざるおえない中、一般からボランティアを募り田植えや稲刈りを体験していただきました。

○ 会報の発行

会報「あさだより」67号（2021年7月）を発行し、会員の皆様や学校、関連企業などの関係者に配布し活動紹介に努めました。

○ ホームページ運営

ブログやNOTEのコーナーが定着してきました。イベント案内や現場からの活動の様子などが伝わるように努めました。

○ 講演、視察、ヒアリングの受け入れ

講演や大学の講義等において代表理事の飯島がアサザプロジェクトの活動理念を紹介しました。（4回）ヒアリングはマスコミや大学、中学生などから6件受け入れました。

❁ ご寄附をありがとうございました。

2021年度の寄付金総額は15,455,625円でした。会員の皆様、心ある支援者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

馬の購入にあたり、クラウドファンディングに初めて挑戦しました。（募集期間2カ月）協力者は87名。支援金は781,000円でした。

❁ イオンのイエローレシートキャンペーンの取組から、年2回（上期24,900円下期29,900円）総額54,800円のご支援をいただきました。

アサザプロジェクトへの参加人数 2021/4~2022/3

環境教育事業	1,614名
水源地保全事業	474名
その他	426名
計	2,514名